

# 自然観察 NOW

No. 36

野幌森林公園自然情報

発行：2019年 3月 24日

北海道ボランティアレンジャー協議会

ホームページ <http://voluran.com/>



雪が溶けて春一番に地面から顔を出し、春を告げてくれるフキノトウ。あまりに身近な存在で目立つ割には地味な花をつけ見過ごしてしまう植物のひとつです。今回はそんな控えめな花にスポットを当てて少々詳しく探ってみます。最後に食材としてのフキについてもふれてみます。

## もっともっと フキノトウ

北海道でよく見るフキは“アキタブキ”という種類で、そのつぼみがフキノトウです。外側は苞と呼ばれる薄い皮に包まれていて中には多くの小さな花がぎっしり詰っています。また花には雄花と雌花がありその花粉は虫によって運ばれます（虫媒花）。

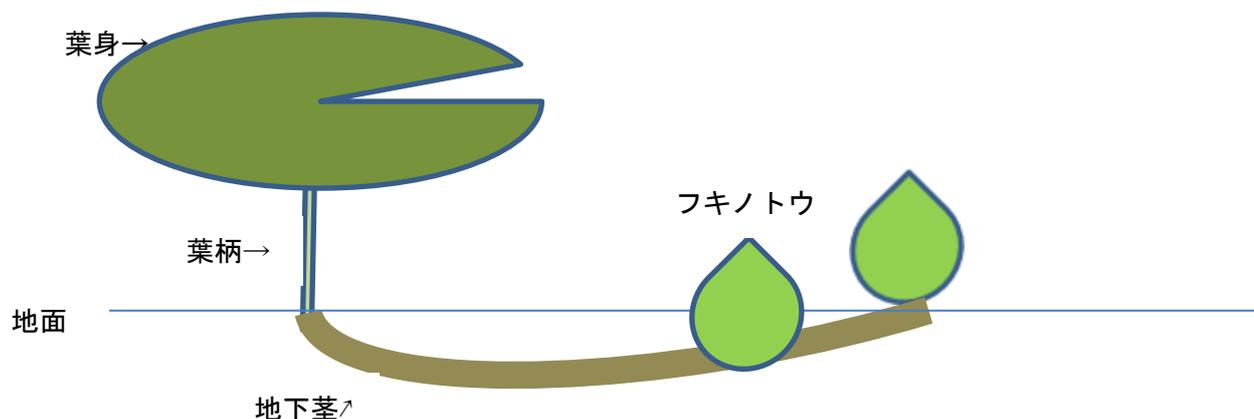
フキノトウとフキの葉は地下茎で繋がっていて、1本の地下茎からは雄花か雌花の一方しか出てきません。雄花が付く株が雄株で雌花が付くのが雌株です。このように株によって雄雌の違いがある植物の形態を**雌雄異株**と言います。雄花・雌花の構造については次ページで説明したいと思います。

下の図を見てもらうと、フキの葉が葉柄と葉身で出来ていることが分かります。私たちが食べている軸の部分はこの葉柄と呼ばれる部分で、茎ではありません。茎と呼べるのは地下茎の部分です。

アキタブキ



▶学名：*Petasites japonicus* subsp. *giganteus* ▶分布：日本原産、本州北部・北海道・千島・樺太 ▶葉柄は1～2m、葉の直径は1.5mとなる ▶足寄地方の一部に産するラワンブキは高さ2～3mに達し北海道遺産に指定されている ▶「ラワンぶき」はJAあしよろの登録商標



# こんなに違う雄花と雌花

雄花は星状に開いた花が集まっているのに対し、雌花は糸状のめしべが出ているだけです。



←雄花



雌花→

雄花は見かけ上は両性花でおしべとめしべがそろっているのですがこのめしべは結実しません。よって機能的には雄となります。しかしおしべの花粉が花の中ほどにあるため、このめしべは花柱（めしべの軸の部分）を伸ばして柱頭（めしべの頭の部分）に花粉を付け花の外側へ押し出す役割があります。

雌花はというとほとんどめしべを付けた雌の花ですが、よく見ると1～数個の両性花（中性花）が混じっています。雄型の形状をしており蜜をためて虫を呼び寄せることができます。

雄のフキノトウは程なく枯れてしましますが、雌は白い綿毛（冠毛）を持つ実をつけ遅くまで頑張ります。

## ※ フキを使った一品

フキノトウは天ぷら・フキ味噌など、フキは煮物・おでんなどで活躍します。ここでは私の好きな“フキごはん”を紹介します。

① フキの味噌漬けを作る。：フキは塩をふり、板ずりします。これをゆでてアク抜きし、水にさらし皮をむきます。タッパーに味噌を敷きガーゼを敷きフキを載せガーゼを敷き味噌を載せサンドイッチにして冷蔵庫で一昼夜寝かせる（時間はお好みで）と味噌漬けの出来上がり。ゆでて皮むきしたフキに味噌を塗りラップにくるんだだけでもok。左党の方はこのままで一品、ついでに卵黄の味噌漬けを作れば珍味がもう一品。

② ご飯が炊きあがったところですかさずフキの味噌づけの小口切りを混ぜいれ少し待てば出来上がり。

※野幌森林公園では動植物(山菜、キノコも含む)を採ることはできません。

### 観察会案内

4月18日（木）春の花を見つけよう 10：00～12：30 自然ふれあい交流館集合・解散

5月11日（土）春のありがとう観察会 10：00～14：30 自然ふれあい交流館集合・解散

参考：長野周辺の山歩きと山野草、松江の花図鑑、百尺竿頭、Wikipedia など

文責： 藤田 潔